

②北部地域の景観特性と景観資源

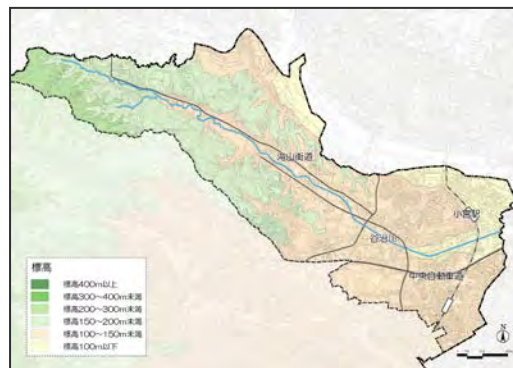


図 北部地域の区域及び地形

ア) 地域の景観の現況と特性

本地域は、地域の中央を谷地川と滝山街道が通り、その南北を加住丘陵が包み込むような地形を有しています。

本地域の東部では、JR八高線が南北に、中央自動車道が東西にそれぞれ通り、工業団地や計画的な住宅地が面的に広がっています。西部では、滝山街道沿いに集落が形成され、集落と農地、丘陵地が一体となった穏やかな景観が見られるとともに、滝山城跡（国史跡指定地）や高月町の田園地帯等、歴史・文化的な景観資源が点在していますが、産業廃棄物や資材置き場の立地により地域の景観が変化しており、丘陵地における緑地景観の維持・保全が課題となっています。

この地域では、新滝山街道の整備や八王子インターチェンジ周辺における新たなまちづくりの展開が予定されており、今後、地域全体としてのまとまりや周辺の自然環境との調和が感じられる景観づくりが求められます。

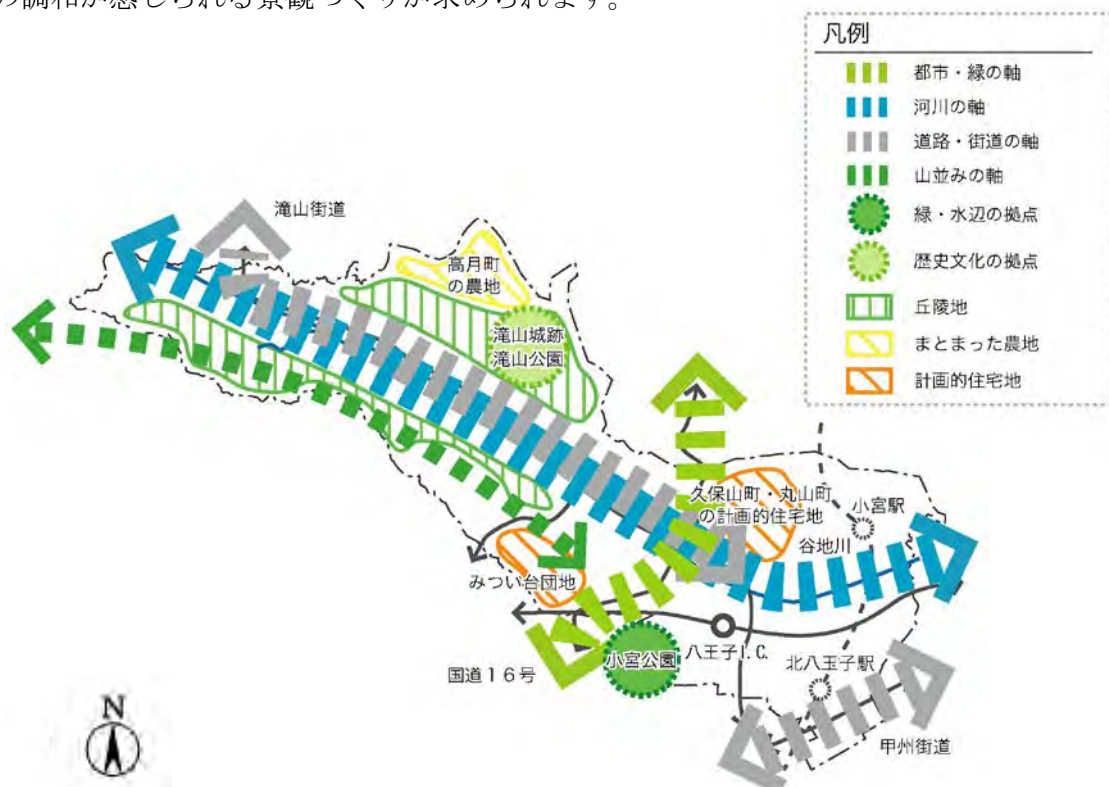


図 北部地域の景観構造



滝山城跡から高月方面への眺望

滝山城跡（滝山公園）

国の史跡に指定されている、関東でも最大級の丘山城といわれる滝山城跡を中心とした自然公園の滝山公園は、春には5,000本の桜が咲く名所として有名です。

豊かな自然環境に囲まれた公園と、丘の上からの眺望は、多くの市民に親しまれている重要な景観資源です。



谷地川

谷地川・滝山街道と加住丘陵

谷地川と滝山街道に沿った低層を基調としたまち並みと、沿川・沿道から眺められる、まち並みの背景となる加住丘陵の緑は、本地域の景観を特徴づけています。



まち並みの背景となる加住丘陵

田園風景

高月町では、多摩川に沿って広大な田園風景が広がっています。農地と農家の住宅、屋敷林、加住丘陵の緑が一体となり、落ち着いた景観が形成されています。



高月町の田園風景

新たなまちづくり

現在整備が進められている新滝山街道や、これから新たなまちづくりが進められる中央自動車道八王子インターチェンジ周辺では、既存のまち並みや丘陵地の緑との調和に配慮した景観づくりが進められることが期待されます。



新滝山街道

工業団地の景観

工業団地に立地している施設は低中層を基調としており、敷地の外周が緑化される等、落ち着いた景観が形成されています。



北八王子駅周辺の工場

イ) 景観資源図

